

FLORA KANAGAWA

April 10, 1987 No. 24

神奈川県植物誌調査会ニュース 第24号

231 横浜市中区南仲通5-60 神奈川県立博物館内

神奈川県植物誌調査会・振替 横浜 3-10195

●ニブイロアゼガヤ (新称)

アゼガヤは、西日本の水田周辺や、湿った畑等に多い草ですが、東日本には少なく、今回の植物誌調査でも、小田原3と金沢区の2箇所から採集されているに過ぎません。アゼガヤは、秋になると小穂が赤く色づき、かなり著しいものですが、神奈川県で見つかったものは採集時期が早過ぎるためか、ほとんど色づいておらず、ルーペで見ると、僅かに小穂の一部が、赤くなっている程度です。ところが1986年9月30日に浜中義治さんが川崎区の田辺新田で一風変わったアゼガヤ属の植物を採集されました。これは全体が丈夫で、大形で、花序の枝が開出せず、一見してアゼガヤとは違う形のものでした。その後、1986年10月30日に城川四郎先生と鶴見区の大黒埠頭の植物を探索したおり、新しい埋立地で、浜中さんの採集した植物と同じものにぶつかりました。全体はちょっとオオクサギビのような感じで、高さは80cm程度。小穂は、長さ5mmくらいあって、アゼガヤの小穂よりも明らかに大きく、また小穂に赤味がなく、鉛色を帯びている点が特徴的です。また花序の枝がアゼガヤのように開出せず、狭い角度で斜上している点も区別点になります。色々調べた結果、この植物は北アメリカから南アメリカにかけて分布する *Leptochloa uninervia* (Presl.) Hitchcock et Chase. に当たるものと考えられます。和名は小穂が鉛色を帯びるところからニブイロアゼガヤと呼ぶことにしたいと思います。(大場達之)

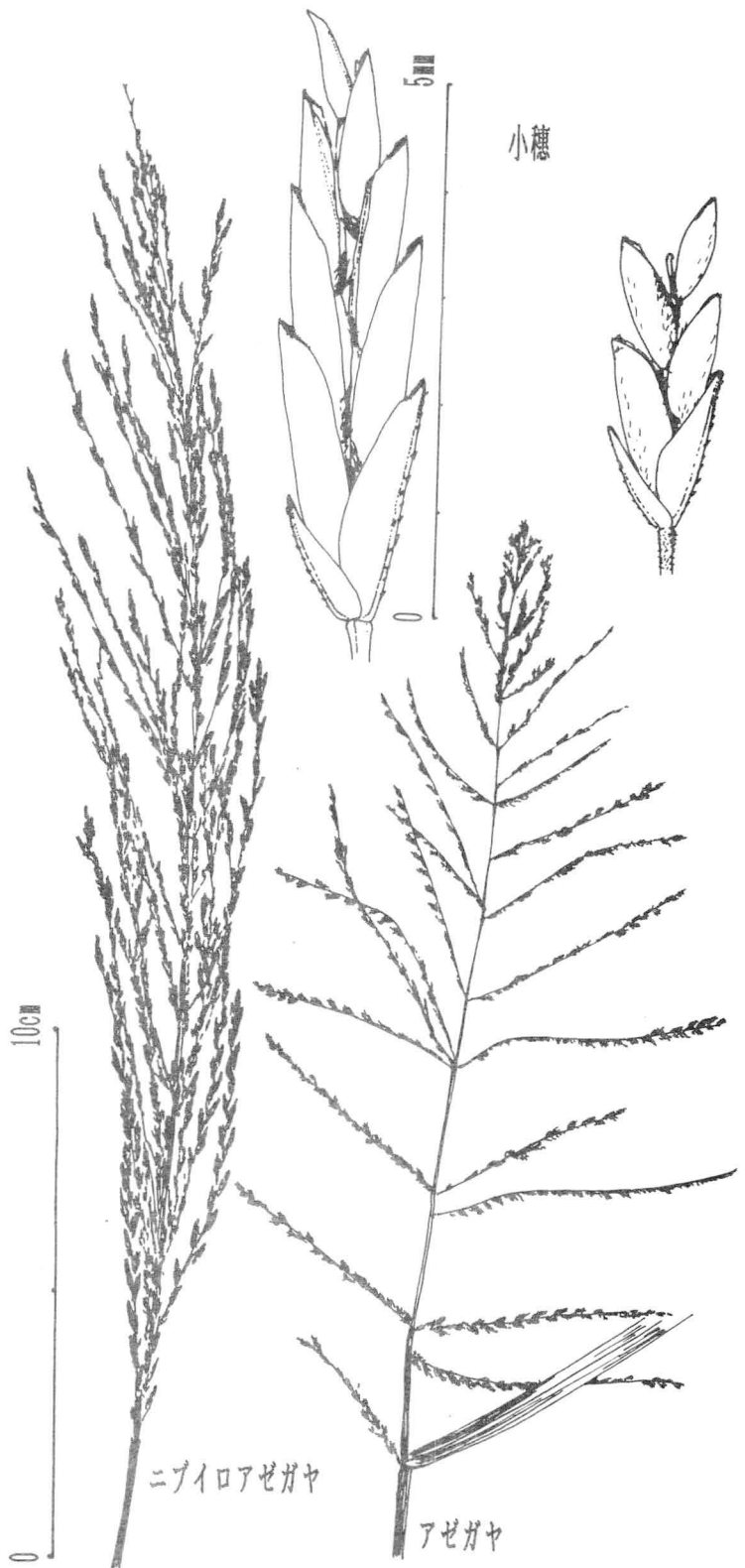
Leptochloa uninervia (Presl.) Hitchcock

4科
(289)



Leptochloa chinensis Nees

4科
(289)



バラ科 ROSACEAE

キンミズヒキ属 *Agrimonia* Linn.

多年草。茎は直立。葉は互生，奇数羽状複葉で小葉には鋸歯がある。托葉は 柄の下部に合着する。花序は頂生して穂状。花の基部には1個の苞と2個の小苞をつける。萼は筒部の縁にかぎのように曲がった刺を持つ（この刺は副萼の変化したものという）。果時にこのかぎが動物の体毛などにひっかかって運ばれる。花弁は5枚。雄蕊は5~25本。心皮は2個。そう果は1~2個，萼筒に包まれる。ユーラシア，南米，北米に分布し，十数種がある。日本には3種があり，何れも本県に産する。

- A. 小葉の数は多く（5~9），先がとがり，裏面の腺点は目立つ……………
- A. 小葉の数は少なく（3~5），先は円みがあり，裏面の腺点は目立たない(1)キンミズヒキ
 - B. 托葉が大きく，扇形に広がる。雄蕊は多い（12~28）……………(2)チョウセンキンミズヒキ
 - B. 托葉は小さく，茎をはさむ。雄蕊は少ない（5~8）……………(3)ヒメキンミズヒキ

(1) キンミズヒキ

Agrimonia pilosa Ledeb.

茎は30~80cm，多毛である。托葉は茎をはさむ形になる。茎の先が花穂となり枝を分けるが，主軸の花，そう果は枝に着くものに比べ大きい。低地，山地のいたるところに生える。北海道，本州，四国，九州に分布する。

神奈川県内の分布型：クリードクダミ型

(2) チョウセンキンミズヒキ

Agrimonia coreana Nakai

茎は30~80cm，長軟毛が密生する。托葉が大きく扇形に広がるのは目立つ特徴である。小葉の先がとがらず，鋸歯も先が鈍いのはヒメキンミズヒキに似るが，花が大きく，雄蕊が多いので識別できる。山地や草原に生えるが少ない。北海道西南部，本州，四国，九州に分布する。本種の県内分布は今回の調査で初めて確認された。

神奈川県内の分布型：ヒメシャラータカクマヒキオコシ型

(3) ヒメキンミズヒキ

Agrimonia nipponica Koidz.

茎は30~60cm，細くて全体に繊細。小葉数も少なく，花もそう果も小さい。低地，山地のいたるところに生えるがキンミズヒキよりも個体数は少ない。北海道西南部，本州，四国，九州に分布する。

神奈川県内の分布型：アカシデーヒメキンミズヒキ型

(城川四郎)

植物誌の本文はこのような形になる予定です。神奈川県内の分布型は試案です。

●植物誌刊行が決定

1987年度の県の予算で，植物誌刊行が本決まりになりました。予算額は到底満足できるものではなく，曲折が予想されますが，頑張って出版にこぎつけたいと思います。細かな点は総会で報告いたしますが，ただいまの予定は次の通りです。

| | |
|------|------------------------------------|
| 書名 | 神奈川県植物誌 '88 |
| 体裁 | A4版。クロス装。上製本 |
| | カラープレート 16頁 |
| | 概論 60頁 |
| | 本文 約1000頁 |
| | 索引 40頁 |
| 予価 | 10000円（送料別1000円） |
| 予約特価 | 1987年12月末までに予約頂いたかたは 送料込みで9000円 |
| 刊行予定 | 1988年3月 |

以上は大体の予定で若干の変更がありえます。

また出版経費の予定を立てる関係で，必要部数を固める必要がありますので，上記の要領で，すでに予約募集を開始しております。みなさまのお知り合いのかたに御宣傳ください。

なお会員のかたは予約申し込みの必要はありません。継続して会員であった方には1部ずつお渡しできる見通しです。しかし全体に経費が不足しておりますので，本年度の会費（2000円）の御納入にご協力をお願いいたします。また前年度以前の会費を滞納されているかたは，この機会に是非その分も御納入をお願いいたします。

●「湘南植物誌 III」

湘南植物誌IIIが3月20日に平塚市博物館資料No.34として刊行されました。シダと単子葉が収められ，双子葉植物の部（湘南植物誌 I, II）の補遺がついています。湘南ブロックの労作で，本文は浜口さんが，全部ワープロで打ち込んだものとうかがいます。B5判。168頁。入手については平塚市浅間町12-41 平塚市博物館（Tel. 0463-33-5111）浜口哲一さんにおねがいします。

Sporobolus vaginiflorus (Torr.) Wood.



Agrimonia coreana Nakai

ハナ科
(345)



チョウセンキンミスヅヒキ

Agrimonia nipponica Koidz.

ハナ科
(345)



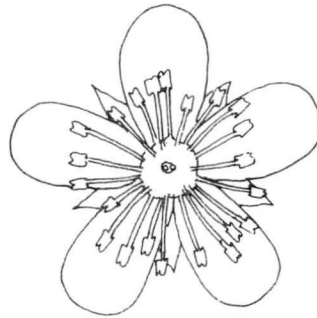
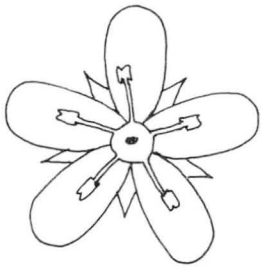
ヒメキンミスヅヒキ

Agrimonia pilosa Ledeb. var. *japonica* (Miq.) Nakai

ハナ科
(345)



キンミスヅヒキ

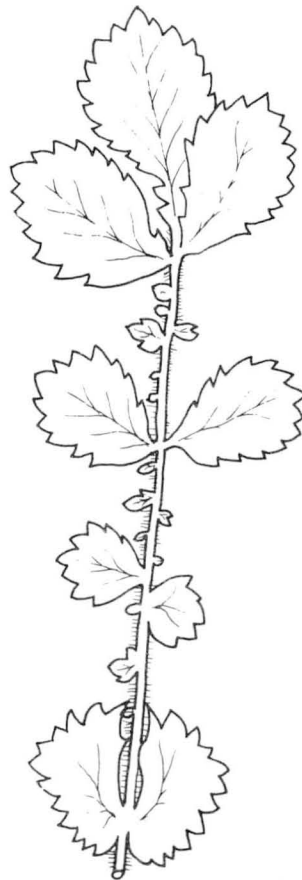


ヒメキンミスヅヒキ

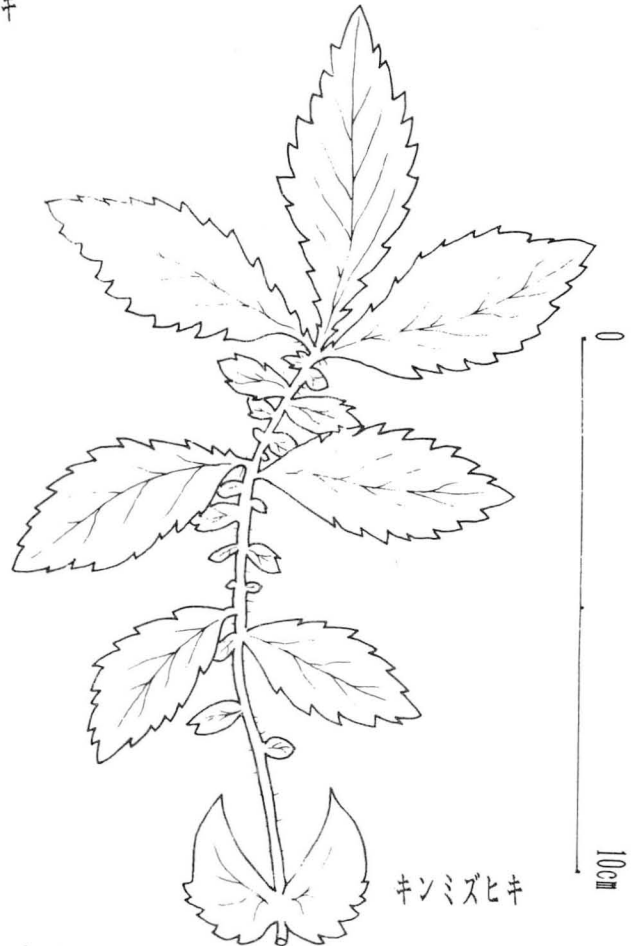
チョウセンキンミスヅヒキ



ヒメキンミスヅヒキ



チョウセンキンミスヅヒキ



キンミスヅヒキ



●同定裏話

「どこに行ってもいやな奴がいる。」これが現在、県立博物館の地下室でごそごそやっている人たちの偽らざる心境です。でも、本当に相手が「いやな奴」ならば、だれも好んで金と時間をかけて文字通り日の当たらない地下室には来ません。そして、実際に来るたびごとに「いやな奴」に逢い、家に帰ってから「いやな奴」を考え、「いやな奴」を消すためにあちこちの本を読むのです。言うまでもなく「どこ」とは科や属を指し、「いやな奴」とは分かりにくい仲間を指します。

標本は採集、乾燥、一応の同定、番号づけ、配達、記録というそれぞれに面倒で困難な過程を経て、さらに詳しく調べられているのですがこれも素直には運びません。集められた標本の中にはどんなものが混じっているかを予測できないところに同定のむずかしさと、楽しさがあります。

私の前では城川さんが数百点のカラムシ属を広げ、葉質、鋸歯などから基準標本に従って分けようと努力しておられますが、これは大変な仕事です。二つの山の間にあるならかな谷間がどちらの山に所属するかを決めるのですから。

私が経験したことをいくつかご紹介しましょう。センナリホウズキとして集められた標本は全部で12点。外形だけはどれもよく似ていますから、葉の形、花や実の各部を測定し記録します。その結果、どうやら4つのグループに分けられそうに思えました。どれが本当のセンナリホウズキなのか分かりません。長田武正さんは著書の中で「センナリホウズキは *Physalis angulata* L. ではないかも知れない。今後の検討を乞う。」と言っておられます。科学博物館の標本も拝見しましたが、結局理解できませんでした。

ちょっとした空き地でよく見ることのあるイヌホウズキもくせ者です。よく似たものにテリミノ、ムラサキ、アメリカ、カンザシイヌホウズキの名をあげることができます。外国の本では普通一種類しか出ていません。日

本の野生植物には「イヌホウズキとテリミノイヌホウズキの区別はなかなか難しい。近年開発の進んだ所にはイヌホウズキに似た外国産の種類がいくつか入っている。」と書かれています。私はこの「いくつか」の特徴をとらえ、たとえばイヌホウズキA、イヌホウズキBのような記号をつけ、学名不詳のまま手配書を作ってみようかと考えていますが、まだその段階まで行っていません。とは言っても、いつまでも「臭いものに蓋」をしておくわけにもいかないのです。

イネ科のイチゴツナギ属はみな外形が似ており、敬遠される仲間ですが、ナガハグサならば同定しやすいと、一枚ずつちょっと見れば左から右へ標本を積み上げていきました。

少し感じるところがあって顕微鏡で調べると、第一苞類がやや幅広く、3脈がはっきりしているものが各地からの標本、91点中に14点もありました。3脈だけでなく葉舌付近には微毛のある特徴も分かりました。これをまとめたところに大場さんが来られ、イギリスの本から *Poa subcaerulea* に該当することを教えられ、他の文献も読んでそれと確認ができました。この植物は第一苞類に3脈があってナガハグサに似ているところからミスジナガハグサの名をつけました。皆さんが持っておられる標本にも15%の割合で混じっている可能性がありそうです。県内の藤野、山北、箱根、小田原、海老名、川崎、横浜とほぼ全域で採集されています。この中には私自身が採集し、見誤っていたものが3点も含まれています。これはかなり早く未確認帰化植物の正体が確認できた幸いな例です。既確認のものを含めて、「神奈川県植物誌・1988」は20種ほどの日本では未発表と思われる帰化植物を付け加えられそうです。

1983年9月発病。84年5月手術。86年11月までほぼ3年休みました。そして、消化器を切り取った後遺症に悩まされながら標本を見る程度の軽労働ならのできるようになりました。今、そうっと県立博物館に通っています。

(森 茂弥)

●「神奈川の植物」展

植物誌刊行を記念して1988年3月19日から5月9日まで、県立博物館において、植物誌調査会と県立博物館の共催で「神奈川の植物」と題した展覧会を開催する予定です。この展覧会は、平塚市博物館、横須賀市博物館にも巡回の予定です。

この展覧会では、植物誌の作成に尽力された会員の、全員のお名前とポートレイトを会場に展示したいと考えております。その写真は今年度の総会のときに撮影させて頂きたいと思いますので、総会には是非御出席下さるようお願いいたします。

●総会のおしらせ

つぎの日程で総会を開催いたします。当日は分布図集の離弁花類と合弁花類をおわたしできる予定です。郵送料が相当な額になりそうですので是非御出席のうえおもちかえりにご協力下さい。

| | |
|----|--|
| 日時 | 1987年5月16日(土曜日)午後2時より |
| 場所 | 神奈川県立博物館 講堂 |
| 議題 | 植物誌刊行について 「神奈川の植物」展について 1986年度事業報告 最近話題の植物(新発見、新知見の植物) その他 |

● サヤヒゲシバ (新称)

このところ相模原市の植生を調べておりますが、相模原市はご承知のように米軍の基地の多いところで、調査がゆきとどかず困っておりましたところ、相模原市の御尽力で基地の中を一巡する機会を得ました。1986年9月相模原市の博物館準備室の太田泰弘先生、桜美林高校の先生と共に、25日に相模原補給廠、26日にキャンプ座間を見ました。相模原補給廠は、戦後に相模川の川原から砂利を大量に運んで敷いたので、川原のような環境が広くあります。その痩せた砂と砂利の所でみなれぬ一年生のイネ科植物を見ました。一見痩せたイチゴツナギのような姿で、直立し、稈の先に貧弱な穂がしょぼしょぼとついています。引き抜くとごく簡単に抜けます。稈の先の花穂のあたりはタチネズミガヤのような雰囲気があります。よくみると稈には短い葉身をもった葉が数個あり、その基部は長い膨らんだ鞘になっていて、その中にはそれぞれ花穂が収まっています。一見ネズミガヤ属かと思ったのですが、調べてみるとこれはネズミノオ属のもので、北アメリカの東部と南部に分布するもので *Spolobolus vaginiflorus* (Torr.) Wood. であることがわかりました。国立科学博物館の標本庫には北アメリカ産の標本が、かなり沢山入っており、それによると植物体の大きさなどは、変化のあるもののようです。葉鞘に特徴のある植物ですから、学名の示種名の意も汲んでサヤヒゲシバと呼ぶことにしたいと思います。"ヒゲシバ"とつけたのは、日本のネズミノオ属のうち、一年草の代表はヒゲシバだからです。ちなみにヒゲシバも貧養、乾燥の砂質の環境に生える点はサヤヒゲシバと同じです。なおこの植物はキャンプ座間の方には全く見あたりませんでした。キャンプ座間のゴルフ場のシバのはげたところでは本物のヒゲシバが見つかりました。これも神奈川県では少ない植物です。(大場達之)

● ショクヨウガヤツリ

小崎昭則さんが1985年8月2日に、二宮町一色で採集されたカヤツリグサ属の一種は、キンガヤツリのような穂の色調ですが、小穂が関節せず、キンガヤツリとは縁の遠いもののようにみえます。小穂の細いカヤツリグサのようにも思えます。所が同じところで同年の11月1日に採集されたものは、地下に細い横走茎があり、そのさきに丸い塊茎がついています。また夏の標本を良く見るとやはり横走茎が僅かに確認できます。取り調べの結果これは、ショクヨウガヤツリ(別名チョウセンナンキンマメ) *Cyperus esculentus* Linn. ということになりました。これは世界に広く分布する雑草で、名前の通り塊茎を食用にすることもあるようです。外国のいろいろな植物誌、図鑑に図説がありますが、Haefliger, E. et al. 1982 *Monocot Weeds* 3, p18. の図がもっとも要をえているとおもいます。日本の本では杉本検索誌単子葉編に名前が見えます。日本のあちこちに帰化しているのではないかとおもわれ、NHKのテレビニュースで埼玉県?あたりで地下茎でふえるカヤツリグサ類の雑草でこまっている、というのを、ちらりと見たおぼえがありますが、これはひょっとすると本種であるかも知れません。怪しいカヤツリグサ属を目にしたら是非地下部を確かめて下さい。尚本種を二宮で最初に発見されたのは野村(旧姓佐藤)礼子さんであるとのことです。(大場達之)



● 87年の開花季節調査について

神奈川県植物誌調査会

春の歩みが一進一退を続けるこのごろですが、お元気で過ごしのことと思います。昨年、一昨年と4月始めに県下一斉の開花調査を行ってきました。個としてはどうするんだと多くの型にお問い合わせを頂きましたが、いろいろ検討した結果、今年は8月ないし9月に同様の調査を計画することにいたしました。「神奈川の秋はどこから来るか」という訳です。詳しい日程が決まり次第ご案内しますので、その節はよろしくご協力下さい。

また昨年、有志の方に継続的な植物季節の記録もお願いしました。今年も同様の内容で情報を収集したいと思いますので、協力して頂ける方は、同封の記録用紙を（不足でしたらコピーして）使って頂ければ幸いです。また記の連絡先に申し込んで頂ければ用紙を希望の枚数お送りします。「神奈川県植物誌」では主な植生別に各種類の開花期を表してみたいと思っています。数日の記録でもまとめの約に立つので断片的な情報でもお寄せ下さい。

• 記録票の記入例

植物季節記録票

メッシュ名 H1-1

1987年3月18日 天気(○)

場所 根板南 記録者 瑛口

△：つぼみ ○：咲始め ◎：満開 ○：盛り過ぎ ×：花終わり ※：熟した実
若い実

| | | |
|-----------------------|---------------------------|-------------|
| ア オキナグサ◎ ウシハコベ△ | カ コオノタビラコ△ カンウツンポポ△ | サ シユンラン△ |
|-----------------------|---------------------------|-------------|

なお昨年の記録票をまだお送り頂いていない方は、原票または下記のような形式に整理したものを4月中にお送りください。整理の紙はどんな罫紙でも結構です。

| 種類 | 月日 | | | | | | | | | | |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|----------|
| | 4 10 | 4 25 | 5 20 | 6 13 | 7 10 | 7 26 | 8 10 | 8 16 | 9 10 | 10 12 | 11 12 |
| アオキ | ◎ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × |
| アカネスミレ | ◎ | × | ※ | | | | | | | | |
| アキカラマツ | | | | △ | △ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | × | × |
| アケビ | ◎ | × | × | × | × | × | × | × | ※ | ※ | |

連絡先：〒254 平塚市浅間町12-41 平塚市博物館 浜口哲一
TEL. 0463-33-7405

● ミズキ開花調査

明年春に予定している「神奈川の植物」展では、神奈川の植物季節を視覚的に展示するために、ミズキの開花記録を行いたいと考えております。開花が一斉で、全県に広く分布し、しかもよく目立つ植物としてミズキを選び、5月中旬のある1日に、県下各地のミズキの開花状態を、カラー写真で記録しようというものです。カメラはバカチオンでもライカでも、なんでも結構です。フィルムは適当なネガカラーで、サービスサイズのプリントに撮影地、日づけ、撮影者を記して事務局までお送り下されれば幸いです。

写真のとりかたは、ほぼ画面に一本の木が一杯に写る程度で、それが難しい場合は、それよりも若干遠くても近くても結構です。県西と県北が手薄になりそうですので、その方面を宜しく願ひできればと思います。期日は植物誌調査の標本から判定しますと、5月10日ごろが横浜の中部で満開のようですから、それよりすこしずらして、一応5月17日の日曜日に設定したいと考えます。1～2日程度の前後は差し支えありません。
(事務局)